

- ☆第87回埼玉県中央メーデー
- ☆地域メーデー/青年委員会カンパ活動
- ☆青年委員会「国会・日本銀行見学会」/第1回組織推進者会議
- ☆政策フォーラム
- ☆政策フォーラム分科会
- ☆男女平等参画推進「トップセミナーお知らせ/6月の行動日程
- ☆あけぼのビル

熊本県を中心とする九州地震で亡くなられた方々に、  
ご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された全ての方々に対し  
心からお見舞い申し上げます。

連合埼玉 会長 小林直哉

未だ東日本大震災からの復興途上にある中、またしても熊本県を中心とした大きな地震が発生しました。今回の一連の地震において、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々、いまだ避難を余儀なくされている方々へ心よりお見舞い申し上げます。

連合埼玉は、東日本大震災の支援とともに、各構成組織、各地域協議会の仲間と連携しながら、今回の地震災害からの復興に、できる限りの支援をしていきます。

支え合い 助け合う 心をひとつに力を合わせ、  
暮らしの底上げを実現しよう!

### 第87回埼玉県中央メーデー

4月29日(金)、さいたま市大宮区「鐘塚公園」にて、「クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン」との連携を軸とし、第87回埼玉県中央メーデーを5,037名の参加のもと開催した。

式典の冒頭、主催者挨拶にて小林会長から、「日本の平和と民主主義、立憲主義が岐路に立たされている。今年度予算を見ても選挙目当てのばら撒きばかりで、貧困の連鎖を断ち切る姿勢は乏しいと言わざるを得ない。貧困解消と戦争反対を高く掲げ、現政権の暴走を阻止する大きなうねりを起こしていきたい」と挨拶があった。

式典では、参加いただいた来賓の方々より挨拶をいただいた後、非正規労働者の訴えとし、UAゼンセンの村上

ツネ子氏に非正規労働者を取り巻く現状とその改善にむけて訴えていただいた。その後、メーデースローガン、暮らしの底上げ実現に向けた特別決議、ならびにメーデー宣言が採択され、最後に小林会長の発声で「団結ガンバロー」三唱がおこなわれ、式典はしめくられた。

本メーデーでは「熊本県を中心とする九州地震」緊急カンパがおこなわれ、多くの方々のご協力のもと、664,654円のカンパ金が集まった。集めていただいたカンパ金については、模擬店での売上金である318,589円とあわせ、「連合九州地震カンパ」へ寄付をおこない、被災した各県に対しての義援金として活用していく。



小林直哉  
連合埼玉会長



上田清司  
埼玉県知事



宮本重雄  
埼玉労協協理理事長



清水勇人  
さいたま市長



大島敦  
民進党埼玉県連代表



元気いっぱい! チアダンスチーム「クラブス」



お楽しみ抽選会



「動物戦隊ジュウオウジャー」と握手!

## 第87回 埼玉県中央メーデー開催



司会: 佐藤道明事務局長



司会: 古賀初代さん  
(女性委員会)



非正規労働者からの訴え  
UAゼンセン村上ツネ子さん



特別決議:  
平尾幹雄副会長



メーデースローガン:  
木村あずさん  
(女性委員会)



メーデー宣言:  
川島貴至さん  
(青年委員会)

### NPO商品販売



ドリンクコーナー



ともに生きる会



森の102工房



フルーツコーナー



中央ろうきん・全労済・パルシステム埼玉



推薦議員の皆さん



整膚コーナー



埼玉分福協



約5000人が集まりました!



なみえ焼きそば



東北3県(岩手・宮城・福島)と埼玉県の物産販売



団結ガンパロー

## 地域メーデー・前夜祭 開催模様

### さいたま市地域協議会メーデー前夜祭

- ◆4月22日(金) 市民会館おおみや
- ◆参加者:147名
- ◆式典、アトラクション、抽選会

式典では、来賓として連合埼玉平尾副会長、清水さいたま市長、枝野衆議院議員より祝辞をいただき、大野参議院議員の力強い決意表明の後、メーデー宣言を確認しました。アトラクションでは、細長い風船を色々な動物やキャラクターにしてしまう「風船王子」によるパルーンアートショーと、昨年に引き続き「からくりどーる」&「シエル」による美女と野獣のマジックショーで、会場は驚きと笑いに包まれました。

お楽しみ抽選会では、各構成単組より多くの賞品を提供いただき、花菱縫製労働組合の斉藤委員長の名司会により、場内は大いに盛り上がりました。



### 秩父地域協議会

- ◆4月24日(日) 秩父ミュージックパーク野外ステージ
- ◆参加者:537名
- ◆式典、お楽しみ抽選会、震災支援カンパ他

晴天のもと開催された、第87回秩父地域メーデーは、参加した家族、子供達の笑顔で満ち溢れていました。今、働くことを軸とする安心社会実現に向けて、我々労働団体が果たしていかなければならない役割と責務を改めて考えるメーデーとなりました。



### 北埼玉地域協議会

- ◆5月1日(日) さきたま古墳公園(行田地区)
- ◆参加者:310名
- ◆式典、アトラクション、抽選会

天気にも恵まれ、メーデー宣言採択まで滞りなく終了することができました。第二部では、恒例の輪投げとビンゴゲームを実施し、日曜日の開催ということもあり、子どもたちの参加も目立ったメーデーとなりました。



- ◆5月1日(日) 羽生市体育館(羽生地区)
- ◆参加者:266名
- ◆式典、抽選会、震災支援カンパ

連合埼玉の大谷副会長より挨拶をいただき、来賓の挨拶も滞りなく進めることができました。今年は、各単組に熊本地震復興募金をお願いし、ご協力をいただきました。また、抽選会では、多数の豪華景品があり盛り上がりました。



### 本庄・児玉郡市地域協議会

- ◆4月24日(日) 本庄市役所駐車場
- ◆参加者:375名
- ◆式典、抽選会、デモ行進

当日は晴天に恵まれ、375名の参加者により盛大に開催されました。恒例のお楽しみ抽選会では、東北地方復興支援として東北地方の名産品や地元本庄市の名産品「きゅうり」など、たくさんの景品を用意して参加者には大いに喜ばれました。また、熊本県地震募金では、メーデー参加者の他に、本庄市役所に来た一般の方からもたくさん募金をいただきました。最後は本庄警察署のご協力を得て、本庄市役所から本庄駅までの約1Kmをデモ行進し、同じ地域で働く仲間同士の交流ならびに地域へのアピール活動を行うことが出来ました。



## 青年委員会にて緊急カンパ活動を実施

連合埼玉青年委員会は4月27日(水)に浦和駅西口にて、「熊本県を中心とする九州地震」緊急カンパを実施した。青年委員会8名に加え、民進党市民・青年局長の三神尊志さいたま市議にも参加をいただき、一連の地震による被害状況の報告と、カンパへの協力を駅頭にて訴え続けた。

集まったカンパ金27,287円については、地域メーデーでのカンパ金や、今後の連合埼玉、地域協議会でのカンパ金とあわせ、「連合九州地震カンパ」へ寄付をおこない、被災した各県への義援金として活用する。



カンパへの協力を呼びかける  
矢口委員長



カンパ活動の様子

## 政治と経済の中心を自らの目で確かめる

### 青年委員会「国会・日本銀行見学」

青年委員会主催の国会・日本銀行見学会を、青年委員会幹事11名のほか、女性委員会より2名、構成組織より8名の計21名の参加者のもと、5月11日(水)に開催した。

当日は、参議院本会議の傍聴から始まった。私たち連合埼玉と共に、志を同じくする議員の仕事ぶりを目の当たりにし、改めて推薦議員の必要性を痛感させられた。その後、今回の国会見学の受け入れ先でもある大野元裕参議院議員より挨拶をいただいた後、国会見学となった。今回の参加者の中には、国会見学は小学校以来という方も多く参加しており、有意義な時間であったとの感想が多くあった。

続いて、参議院議員会館内会議室において、埼玉県選出の国会議員の皆さんと意見交換をおこなった。青年委員会からは「民進党の魅力をどの様にアピールしていくのか?」「組合員へ今夏の選挙の必要性をどの様に訴えていくのか?」「将来の年金支給への不安」等々、青年層ならではの議論がされた。

参加者からは、「普段遠くにいる存在であったが身近に感じた」など率直な感想が出ていた。

そして、場所を移動し日本銀行見学をおこなった。日本銀行は日本唯一の発券銀行としてお札の発行・流通・管理に関する仕事をおこなっている。その建物内には、巨大な金庫が地下に設置されており、その大きさに驚いた。さらには、お札を出来るだけきれいな状態で流通させるために、古いお札は回収・細分化し、その分、偽装されない技術を施した新札を発行していることも初めて知るところだった。

政治と経済の中心を、実際に足を運び自らの目で確かめることができ、非常に有意義な一日となった。

来年度以降も開催し、青年委員会の活動をさらに強化していく。



日本銀行・中庭にて

(青年委員会 委員長 矢口 昌広)

## 「20万連合埼玉」実現に、手法の共有をはかる

### ～第1回組織拡大推進者連絡会を開催～

5月10日(火)、ときわ会館にて構成組織代表者・組織拡大担当者、地域協議会代表者が参加し「第1回組織拡大推進者連絡会」を開催した。冒頭、浅見組織委員長より「組織拡大は、各組織でも喫緊かつ最重要な課題だと思う。連合埼玉も早期20万を達成できるよう活動を展開している。今年度も半年が経過した。本日の連絡会を機に、なんとしても成果を出していけるよう各組織とともに意識を高めていきたい」と挨拶された。

その後、連合埼玉「なんでも労働相談ダイヤル」の状況報告をおこない、連合本部宇田川組織拡大・組織対策局長より2014～2015年度組織拡大の実績が過去最高の306,518人になったとの報告を交えながら“三位一体における組織拡大の実績及び手法”について説明があった。また、埼玉県内組織化事例報告として、“連合埼玉「なんでも

労働相談ダイヤル」より構成組織と連携した組織化”“組織内拡大における取り組み”について、構成組織の代表者から報告がおこなわれた。

連合本部からの説明に対しては、地方での組織化における問題点などの質問も出され、活発な意見交換となり、組織拡大に向けた意思統一がはかられた。



挨拶をする  
浅見組織委員長



手法の説明をする  
宇田川連合本部局長



構成組織と連携の取り組みを  
話す女部田アドバイザー



組織化後の現在までを話す  
JAM埼玉松村副事務局長



組織内拡大の取り組みを話す  
JP労組鈴木事務局長



会場との意見交換

## 仕事と介護の両立のために

### 2016政策フォーラム

5月17日(火)「2016年度政策フォーラム」を、埼玉県県民健康センターにて構成組織、地域協議会、推薦議員など130名の参加のもと開催した。冒頭、主催者を代表して小林会長から「今の世の中は、保育園落ちた、チャイルドプアー、貧困女子、下流老人などの言葉が並んでいる。安倍総理のトリクルダウンについてその蛇口は非常に硬く、下にしたり落ちる状況ではない」との挨拶があった。午前中は、中央大学大学院戦略経営研究科の教授、佐藤博樹氏による講演(下記の講演要旨参照)、午後から「2015年度の県要請に対する回答報告」、4テーマに分かれて分科会、再び全員が集まり分科会の報告会をおこなった。



挨拶をする小林会長

#### 佐藤博樹氏の講演要旨

#### 介護離職防止! 仕事と介護の両立支援

#### ～子育てとの両立支援の違いを踏まえて～

昔と違って、核家族化が進み、また兄弟の人数も少なくなり、介護が必要な高齢者をかかえる家族が働いている場合が多くなっている。したがって、仕事と介護の両立支援がより大事になっている。



講師:佐藤博樹氏

40歳代以降の層では、介護の課題を抱えた社員が少なくない。しかしながら、介護保険制度や勤務先の両立支援制度に関する情報が身近にはないため、仕事と介護の両立に不安を抱き、仕事の継続が難しいと考えている社員も多い。

介護離職は、会社にとっては管理職を含めて中核人材の流出となり、また、社員にとっても介護が終わった後の再就職が困難であったり生涯所得の減少など問題がある。



会場の様子

仕事と介護の両立支援のポイントは、介護に関する社会的資源や社内資源を組み合わせ、両立を可能とする必要な情報を介護の課題に直面する前に提供すること。介護に直面したら必要なアドバイスや情報を得られるように専門家につなげること。そして介護休職は、介護をするためではなく、社会的資源、社内資源を使えるようにするために休職すること。

そのためにも、企業や組合が40歳になった社員全員に対して研修会を開催し、介護保険の制度を説明し、特に本人に関してよりも、親などが利用できることを説明すること、介護に関する自社の制度を説明すること、また、介護の課題をかかえたら、人事などに相談しアドバイスを受けるように伝えることが重要である。

また、親が65歳(介護保険証が届く年齢)になった社員が、親の生活の状況や健康状態、要介護になった時どのような希望があるのか前もって話し合っておくことも重要である。

最後に、恒常的な残業の削減や介護に関する情報の共有化、メリハリのある働き方など、働き方を点検し仕事と介護の両立が可能な職場とすることも重要である。

## 2016政策フォーラム 分科会

### A分科会

#### 雇用環境整備について

#### ～非正規雇用をめぐる課題と対応を考える～

講師:連合本部 非正規労働センター 杉山 寿英氏  
労働法制対策局 渡辺 温子氏

連合本部役員より、非正規で働く皆さんの雇用・賃金の実態や非正規労働センターの取り組み、そして改正労働者派遣法に関する取り組み内容について説明を受けた。その後、参加された皆さんの組合での非正規労働に関する課題への対応を共有し、「労働組合としてなができるのか」を議論した。

総務省や連合・連合総研の調査では、2014年時点で、働く人の約4割が非正規労働者であり、そのうちの3割以上の方が家計の主たる担い手となっている。この方々がかかえている賃金等の格差の課題は正規労働者の課題でもあり、非正規労働者を組織化していない組合も自らのこととして取り組む必要があることを参加者全員で共有した。



## 2016政策フォーラム 分科会

## B分科会

食品ロス削減のためにできることは  
～食品廃棄を取り巻く現状と課題～

講師: 農林水産省関東農政局 経営・事業支援部食品企業食品産業環境指導官 松村 悦子氏  
フードバンク埼玉 埼玉労協専務理事 永田 信雄

食べられるのに捨てられてしまう、いわゆる「食品ロス」をとりまく現状について学び、また、その削減策の一つであるフードバンクについて理解を深めることとなった。

松村氏からは、食品廃棄に関する現状説明のほか、約642万トンと推定されている日本の食品ロスの削減にむけた取り組みとして、いわゆる3分の1ルールといわれる納品期限に関する商慣習の見直しプロジェクトの紹介や、家庭においても消費期限と賞味期限の違いを理解し、五感で食べられるか判断することが重要であるといった話があった。

続いて永田氏より「フードバンク埼玉」について紹介があった。

大量の食品ロスがある一方で、満足に食べることができない人が6人に1人いると言われており、埼玉県においても東日本大震災での県内避難者へのお菓子の差し入れを1つのきっかけとし、フードバンク活動がはじまり、4/14には運営協議会が設立されている。現時点においても食料の確保や保管などに課題があり、さらに、今後については立ち上がったばかりのフードバンク埼玉の認知度の向上や、各労使でどういった取り組みができるのか検討を進める必要があることについて参加者全員で認識を深めた。



## C分科会

介護が必要な人が充実した生活をおくることのできるサービスとは  
～地域で介護事業をおこなっている団体から見える課題とは～

講師: 特定非営利活動法人 暮らしネット・えん 代表理事 小島 美里氏

安倍首相は、一億総活躍社会実現のため、「介護離職ゼロ」を掲げている。しかし政府が検討している内容は、安心につながる社会保障とはかけ離れているのが実態で、地域でサービスが受けにくくなっている。このような状況で、自宅のように生活ができるグループホームや配食事業をNPOとして新座市でおこなっている小島氏より現状と課題について話をさせていただき、意見交換をおこなった。冒頭、小島氏より在宅介護の切り札としての小規模多機能型介護を立ち上げた経緯などの説明があり、また、課題として、介護保険法が改正毎に複雑化しサービスの利用範囲の縮小や、介護報酬マイナス改定、ヘルパーの就労についての話があった。

最後に小島氏からは、「えん」のホームページに介護離職ゼロにむけ新座市に陳情をおこなった際の陳情書をアップしているのは是非活用し、各市町村に陳情をおこなってほしいと呼びかけられた。その後、意見交換をおこない介護離職防止のために労働組合として支援していかなければならないことを全員で確認し終了した。



## D分科会

子どもの貧困のない社会をめざし  
～日本の子どもの貧困の特徴は～

講師: 「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク 共同代表 平湯 真人氏  
日本弁護士連合会 貧困問題対策本部 弁護士 紅山 綾香氏

子どもの貧困のない社会、子どもの貧困を放置しない社会にするためにどのような対応ができるのか議論を進めた。

最初に平湯氏より、子どもの貧困をめぐる社会意識の変遷、2013年に制定された「子どもの貧困対策推進法」、これを受け制定された「大綱」の概要、貧困の社会的統計学的定義についての説明があった。続いて、紅山氏が研究している「子どもの貧困対策モデル条例」について説明を受けた。

参加者からは、「条例をすでに制定した自治体はあるか?」「貧困対策の実効性を上げるためには?」などの質問があった。また、学校の先生からの報告として、「2000年以降に教材費の滞納が増えた。無保険で医療機関に連れて行けない。高校の受験料が払えないので公立しか受けない」といった事例報告があった。



## 男女平等参画推進「トップセミナー」を開催します!

本年も6月を「男女平等月間」とし、男女平等参画社会の実現に向け、「クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン」と連動したさまざまな取り組みをおこないます。

その中で、本セミナーは構成組織・加盟組合のトップや男女平等参画を推進する立場にある組合役員の皆さんを対象とし、組合組織や企業の男女平等参画をより一層進めていくための一助としたい、という考え方のもと開催いたします。

本年のセミナーは、連合の男女平等参画に関する取り組みの全体像を理解していただくこととあわせ、職場の生産性に大きな影響を及ぼす“働く人の更年期”への対応を解説するものとして設定しました。

多くの皆さんの積極的な参加をお願いします。

なお、同日同会場にて13時から「メンタルヘルス研修会(応用編)」を開催します。

(Vol.291 5月1日号にて既報)



日時: 2016年6月10日(金)9:30~12:00

場所: JA共済埼玉ビル

内容: ①講演 「連合 男女平等参画推進の全体像」

講師: 富高 裕子氏(連合男女平等局長)

②講義 「“女性活躍”と職場での更年期への対応」

講師: 永田 京子氏(NPO法人「ちえぶら」代表)

### 現在予定される6月の日程表です

6月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	水	組合役員教育プログラム実務④(13:00~・あけぼのビル3F)	①平成28年度第1回埼玉県若者労働連携会議(10:00~12:00・埼玉県民健康センター) ②連合「第2回地方連合会代表者会議」(14:00~17:00・連合会館)
2日	木	「熊本県を中心とする九州地震」緊急カンパ(18:00~・浦和駅東口)	連合「第72回中央委員会」(10:00~13:30・東武ホテルパンド東京)
3日	金		
4日	土	平和集会(13:00~・埼玉ミュージアム)	
5日	日		
6日	月		
7日	火	第7回四役・執行委員(産別交流)	
8日	水		①朝霞・東入間地域協議会「第3回幹事会」(18:30~・本田技研労働組合) ②川越・西入間地域協議会(18:30~・ネット21川越)
9日	木		①埼玉労福協第3回理事会(10:00~・ときわ会館) ②埼玉社労士祝賀会(17:30~・ホテルプリランテ武蔵野)
10日	金	①男女平等参画推進「トップセミナー」(9:30~12:00・JA共済埼玉ビル) ②メンタルヘルス研修会(応用編)(13:00~16:30・JA共済埼玉ビル) ③「熊本県を中心とする九州地震」緊急カンパ(18:00~・大宮駅東口)	
11日	土		埼玉教職員組合「第28回定期大会」(9:30~・国立女性教育会館)
12日	日		
13日	月		
14日	火	①政策・制度委員会(9:30~・連合埼玉会議室) ②埼玉シニア連合「第4回幹事会」(12:00~・連合埼玉会議室) ③埼玉シニア連合「第15回全組織代表者会議」(14:00~・あけぼのビル501)	
15日	水	女性委員会「第6回幹事会」(18:00~・連合埼玉会議室)	埼玉労働局「既卒3年以内就職面接会」(13:00~・大宮ソニックシティ)
16日	木		さいたま市地域協議会幹事会(18:30~・ネット21大宮)
17日	金		ときわ会館評議員会(10:00~・ときわ会館)
18日	土	災害ボランティア救援隊員研修(中級編)(13:00~・防災学習センター)	
19日	日		
20日	月		
21日	火		
22日	水		中央労働金庫第16回通常総会
23日	木	2016連合平和行動in沖縄(~25日)	
24日	金		
25日	土		
26日	日		
27日	月		
28日	火		
29日	水		
30日	木		

Akebono Building

## あけぼのビル

| 事務局長 |

佐藤 道明 |

## ◆「ニッポン一億総活躍プラン」問われる実効性

安倍政権が掲げる「一億総活躍社会」に向けた中長期計画「ニッポン一億総活躍プラン」が5月18日公表された。プランは子育て支援や社会保障の基盤を強化し、それが経済を強くするという新たな経済社会システム創りへの挑戦とその意義を唱えている。

内容は多岐にわたる43項目からなるが、柱は労働分野と育児・介護分野だ。これまで社会保障政策は高齢層に偏っており、若年層に焦点をあてた包括的な改革案の方向性は評価できる。しかし、どのように実現するのか、十分な根拠が示されているとは言い難い。

最低賃金の引き上げ、非正規労働者の待遇改善、奨学金制度の拡充、保育士や介護職員の処遇改善など、その内容には連合が提起してきた政策と重なる点も見られる。しかし、「アベノミクス」の限界が明らかになる中でも依然として「名目GDP600兆円」などの目標を掲げる一方で、恒久財源の裏付けについて説明できておらず、実現に向けた政府の姿勢には強い疑念を抱かざるを得ない。

## ◆雇用・労働分野の主な施策と課題

雇用・労働分野では「同一労働同一賃金」の実現を掲げ、非正規労働者の待遇改善は「待ったなしの課題」と強調する。正社員に対する非正規労働者の賃金水準は約6割だが、8割程度の欧州並みに縮めることをめざすとした。その手段として「不合理な待遇差」を明示するガイドラインを策定。労働契約法、パートタイム労働法、労働者派遣法の三法の一括改正を検討するとしているが、どのような規定をどう見直すのかは不明である。

最低賃金については、年率3%程度を目途に全国加重平均1,000円をめざすとしているが、時給1,000円では年収200万円にも満たない。名目GDP成長率の変動に関わらず早急に「誰でも1,000円」を実現したうえで、生活できる水準まで大幅に引き上げる必要がある。同時に、政府は、良質な雇用を創出する中小企業に対する支援や公正な取引慣行実現に向けた環境整備に注力すべきである。

長時間労働の是正については、時間外労働規制の在り方について「再検討を開始する」とするのみだ。一億総活躍国民会議では、総労働時間の上限規制を求める声も出ていたが、プランでは踏み込んでいない。

1人あたりの年間労働時間はドイツが1300時間台、フランスが1,400時間台なのに対し、日本の正社員は2,000時間超で高止まりしている。長時間労働の悪影響は深刻だ。第1子出産を機に女性の6割が離職する現実がある。管理職への昇進をためらう人も少なくない。男性が子育てや家族の介護に積極的に参加するうえでも、長時間労働は障害になる。時間外労働を根本から抑える手立てが必要であり、特別条項付き36協定締結時の上限時間規制、インターバル規制の導入をおこなうべきである。

## ◆保育・介護分野の主な施策と課題

保育・介護分野については、人手不足が深刻な保育士や介護職員の賃金引き上げが盛り込まれた。来年度から保育士の賃金を月平均6千円引き上げ、経験に応じ最大4万円程度を上乗せする。介護職員は月平均1万円引き上げることとした。

しかし、この程度の賃上げでは人材確保は難しい。保育士や介護職員の平均月収は全産業平均と比べ10万円以上も低く、賃金格差を埋める対策としては不十分と言わざるを得ない。また、プランに盛り込まれた保育士や介護職員の処遇改善には約2千億円が必要だが、アベノミクスによる税収増を充てるとされているだけで、恒久財源のめどが立っているわけではない。

奨学金制度の拡充については、無利子奨学金の対象枠の拡充は盛り込まれたものの、給付型奨学金の導入は先送りされており、早期に給付型奨学金を恒久的な制度として創設すべきである。「女性活躍」では、女性活躍推進法に基づく取り組みを推進するだけでなく、長時間労働など男性の働き方の見直しや、性別役割分担意識に基づく慣行の払拭による、男女がともに働きやすい環境整備を着実に実行すべきである。

## ◆参議院選挙の争点つぶし

子どもを産み育てやすい環境を整え、仕事と介護を両立させ、高齢になっても働き続けられる社会をめざすとの趣旨に異論はない。少子化対策や働く人を増やすことは、人口減少という供給面の制約を乗り越え、日本経済の潜在成長率を高めるために欠かせない。

しかし、「ニッポン一億総活躍プラン」は、夏の参議院選挙に向け、野党が主張する子育て・介護の支援策や非正規労働者の待遇改善・格差是正などの政策を並べ、参議院選挙の争点つぶしの思惑が透けて見える。選挙対策のための「絵に描いた餅」とならぬよう、政府は実現可能性を裏付ける根拠を掘り下げて提示すべきである。

2016.5.21